

単元 角

1 単元について

- (1) 角については、第2学年で長方形、正方形のかどの形として「直角」を学習し、第3学年では二等辺三角形や正三角形の学習に関連づけて角を扱い、「1つの頂点から出ている2つの辺がつくる形」を角と定義することを理解している。角の大きさが辺の開き具合で決まることにもふれ、重ねあわせる操作も取り入れながら、角の大小についても学習している。

本単元では、前学年での学習を基に、身近な物を扱った角の大きさの比較を導入課題としている。しかし、本単元では量の大きさとしての角のとらえ方だけではなく、回転の大きさを表す量に着目して角をとらえる。また、本単元の学習を通して、視覚による判断が難しい「角度」を「長さ」や「かさ」や「重さ」と同じような量の一つとしてとらえ、いろいろな角の大きさを比べたり調べたりしていく。その比較・測定の段階として一般に、直接比較、間接比較、任意単位による測定などがあるが、子どもたちにはさまざまな方法で比較・測定する中で、分度器を用いて数値化することの便利さに気づかせていきたい。

また、「1つの頂点から出ている2つの辺がつくる形」が角であるという考え方を基に、その1辺を回転させることで角が大きくなっていくという実体験を取り入れることが大切である。このような活動を取り入れることにより、子どもに「回転角」の意識づけが図れると考えられる。また実際に、身の回りの角度を探し測定していく中で、「角度」の量感を育てていきたい。

- (2) 本学級（男子12名、女子9名）の児童は、学習意欲があり、既習事項を使って問題を自分なりの考え方で解決しようと意欲的に取り組むことができる児童が多い。しかし、意欲が続かず、一度つまずくと投げ出してしまったり、受け身の姿勢になったりしてしまう傾向にある。既習事項の基礎・基本が身につけていない児童は3割程度いる。また、具体的な操作活動を用い、視覚的・直感的に考えていくことは意欲的に取り組むが、物事を論理的に考えたり、自分で考えたことを人にわかりやすく表現したりすることが苦手な児童も多い。

- (3) 児童の実態をふまえて、本単元では、次の点に留意して支援していきたい。

- ・ 児童自らが課題に主体的に取り組めるように、ものさし・三角定規などの具体物を使って考えさせたり、切ったり重ねたりの算数的活動を取り入れながら考えていくようにする。
- ・ 任意単位による測定が体験できるよう、あらかじめ任意単位を設定しておく。
- ・ 個々の知識を引き出せるよう、課題を考える時間を十分にとる。
- ・ 自分の考えのよさや友達の考えのよさを認め合う態度を育てていけるよう、課題を解決していく中で児童同士の情報交換の場を設ける。
- ・ 全体場で、自分の考えを人にわかりやすく説明できるように、まずは、班での交流のときに図をもとに口述で説明する場を設ける。

3 単元の目標

- (1) 身の回りの事物の角度に関心を持ち、進んで測定しようとしたり、角度を使って模様づくりを楽しもうとしたりする。（関心・意欲・態度）
- (2) ある角度を2つの角の和や差と見るなどして測定の方法を考えることができる。（数学的な考え方）
- (3) 角の大きさの単位を知り、分度器を使って角を測定したりかいたりすることができる。（表現・処理）
- (4) 回転の量として角をとらえるとともに、半回転、一回転などの意味を理解する。（知識・理解）